

企業・団体



事業

新聞づくりアプリ「ことまど」

事業区分 「教育」「その他」

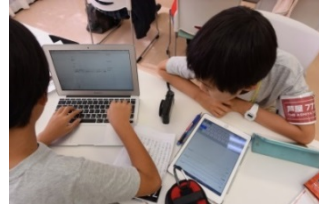
実施時期（又は期間） 平成30年4月から本格展開

概要

パソコンやタブレットなどを使って、簡単に本格的な新聞が作れるクラウド型アプリ「ことまど」を小・中学校、高校を中心に提供。平成30年12月現在、全国の約40校3500人が利用。

- ① レイアウトを約40種類のパターンの中からあらかじめ選んでおくことで、紙面は自動で割り付けされる。記事、見出し、写真を入力するだけで新聞ができあがる。
- ② クラウド型アプリなので、ソフトのインストールは不要。ネットに接続できる環境があれば、どこでも使える。一つの新聞を複数の児童・生徒が同時に編集することも可能。先生は進捗状況が確認できる。
- ③ 完成品はPDFで保存、出力。他校からもPDFを見ることができ、新聞を使った交流授業も容易。
- ④ 記事の書き方講習、取材ノウハウの提供など、新聞社ならではのサービスを展開（オプション）。優秀な新聞を表彰する「ことまど新聞コンクール」も開催する（応募は兵庫県内の学校のみ）。
- ⑤ 教材・授業モデルの開発では兵庫教育大学と連携。
- ⑥ 学校以外にも、自治体やNPOが主催する地域づくりイベントなどで利用されている。

イメージ図



レイアウト選択

作りたい新聞のイメージに合わせて、パターンの中から選びます



記事・見出しの入力

決められた文字数で、要点を押さえて書きます



写真の配置

拡大や回転、トリミング、画像編集も自由にできます



本格的な新聞が完成！

記事、見出し、写真を自動でレイアウト。あっという間に完成です

(参照：<https://www.kobe-np.co.jp/kotomado/>)

効果・成果

紙面内容の決定や取材対象の選定、取材、記事の執筆など総合的な学びを通じ、調べる力、まとめる力、伝える力が自然と身につけられる。新学習指導要領で重視される「主体的・対話的で深い学び」につながる。

- ① 手書きより、短時間で充実した新聞が完成。紙面の割り付けが自動化されるため、中身にこだわった新聞をつくることができる。本格的な新聞ができるため、児童・生徒が意欲を持って取り組む。
- ② 新聞づくりを通じて、自然にICT機器の操作に慣れることができる。
- ③ 活用シーンは、国語・社会・総合学習のまとめ、職業体験のまとめ、学校行事のまとめ、調べ学習、進路学習、表現活動、新聞部の活動など多彩。
- ④ 新聞に親しみをもち、社会への関心が高まる。

担当部署

株式会社神戸新聞社（神戸市中央区東川崎町1-5-7）

担当者：教育ICT室 梶岡、徳永、武藤 Tel：078-362-7009 e-mail：ict-kyoiku@kobe-np.co.jp

URL：<https://www.kobe-np.co.jp/>